

「れんらくきょうぎかい」

とは? — 編集部



本誌の記事には、「連絡協議会（れんらくきょうぎかい）」という言葉がよく出てきます。耳慣れない言葉かもしれませんが、これは、「学童保育連絡協議会」のことです。「学童保育の会」「放課後児童クラブ連絡会」などの名称が使われている地域もありますが、基本的な目的と役割は同じです。

ここでは、「学童保育連絡協議会」について、その役割と、実際に取り組みを進める際に、私たちが大切にしたいことを紹介します。

交流・学習を大切に

— 学童保育連絡協議会

学童保育を発展させる原動力は、「一人ひとりの保護者の子どもへの願い」「学童保育への願い」そして、「保護者と指導員が力をあわせて共につくる父母会・保護者会」です（今月号の特集もお読みください）。

学童保育連絡協議会は、この原動力を力に、一人ひとりの保護者や指導員の願いや思いを束ね、その地域と全国各地の学童保育をよりよいものへと発展させるために、交流・学習・研究をとおして取り組みを進める組織です。

「連絡協議会」は、その名前の示すとおり、情報交換や交流・連絡を通じて、「学童保育運動がこれまで培ってきたこと」や「国や自治体の施策」を学習し、それらをふまえて合意を形成し、課題解決の手立てを共に考え、学童保育を発展させていく役割を担っています。



現在、連絡協議会は、「市区町村」「都道府県」「全国」
ごとにありますので、それぞれについて説明します。

市区町村の学童保育連絡協議会

市区町村の学童保育連絡協議会（以下、連絡協議会）は、「ほかの学童保育や父母会・保護者会はこのように運営しているのか知りたい、情報交換や交流を図りたい」という保護者・指導員の気持ちと、それぞれの学童保育や父母会・保護者会が持つ共通の課題（補助金の増額や施策改善など）について、まとまって行政に要望していく必要性から生まれました。個々の父母会・保護者会や保護者・指導員が連絡協議会を通じてまとまることで、より大きな力を発揮することができます。そして、個々の現状を交流したうえで課題を共有し、改善に向けて情報交換を行い、要望をまとめて行政に届けることなどを通じて、学童保育の改善に取り組んでいます。

い か き う よ き

都道府県の学童保育連絡協議会

都道府県の連絡協議会の多くは、市区町村の連絡協議会で構成されています。都道府県の連絡協議会の主な役割は、各市区町村の学童保育関係者が情報交換を行い、学びあう場を設け、各地での改善に向けた取り組みを支えることです。

「他市ではこのような取り組みをしていると知ったことが、自分たちの市の施策の改善に向けた取り組みの発端となった」との声も数多く寄せられています。

また、都道府県には、教育や福祉などの面で地域間格差を是正していく役割と、国の施策を具体化して推進する役割もあり、学童保育についても独自に補助金制度を設けるなどして、市区町村を応援する働きを担うことがあります。そこで都道府県の連絡協議会は、予算や施策改善についての要望をとりまとめ、都道府県に施策の改善を求める取り組みも行っています。

